

名称	加温貯蔵室
建築年代	大正10年から昭和9年までの間
構造	鉄筋コンクリート造平屋建て
用途	低温では凍結して鋭敏となるダイナマイトのような爆薬や、砲弾にTNTなどの炸薬を装填した後に、加温しながら脱泡させるため貯蔵する場合に使用された部屋と想定されている。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・建物には四方向それぞれに扉が付いている。東側の扉は隣接する加温貯蔵室および試験火薬仮置場に向かう扉と考えられる。 ・東西方向には高い場所に鉄枠の小型の窓が付いている。北面と南面には窓が2か所付いている。北側の西寄りにあった窓はシャッター付きの出入り口に改変されている。 ・南側の東寄りに鉄製パイプがつながるような構造も見られ、加温した水や熱媒体が循環していた可能性も想定されるが、加温の方法は不明である。



加温貯蔵室外観



加温貯蔵室内部



加温貯蔵室南側扉